

「静岡市のお茶」に関するアンケート調査

1 調査目的

静岡市では、お茶に関する伝統、文化、産業を守り、静岡市を日本一の茶どころとして育て、次代に継承していくため、「静岡市めざせ茶どころ日本一条例」及び「静岡市茶どころ日本一計画」を策定し、「静岡市のお茶」の振興に向けた施策を実施しています。

市民の皆様「静岡市のお茶」に関するご意見等を伺い、今後の施策の参考とするため、市民アンケートモニター調査を実施しました。

2 調査対象

市政アンケートモニターとして委嘱した市内在住の 150 人

3 回収件数

145 件（回収率 96.7%）

4 調査方法

インターネットによるアンケート調査

5 調査期間

令和3年7月21日（水）～令和3年7月28日（水）

6 担当課

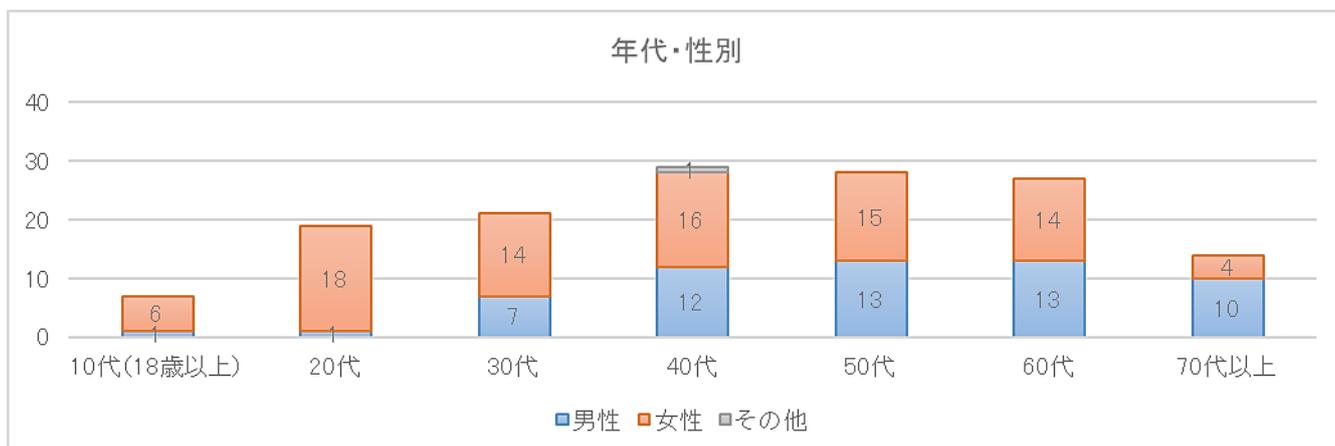
農業政策課

7 回答者の属性

（1）年代・性別

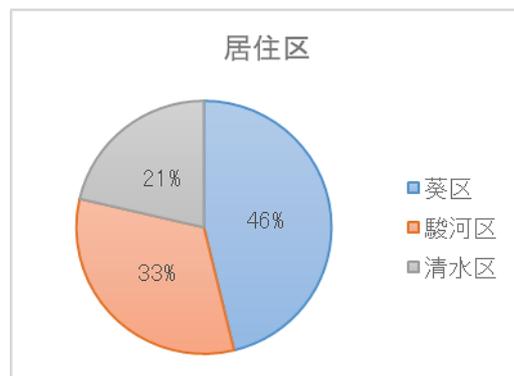
（人）

	男性	女性	その他	計
10代（18歳以上）	1	6		7
20代	1	18		19
30代	7	14		21
40代	12	16	1	29
50代	13	15		28
60代	13	14		27
70代以上	10	4		14
計	57	87	1	145



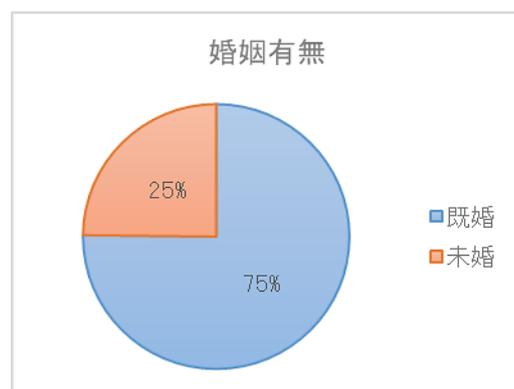
(2) 居住区

	(人)
葵区	67
駿河区	47
清水区	31
計	145



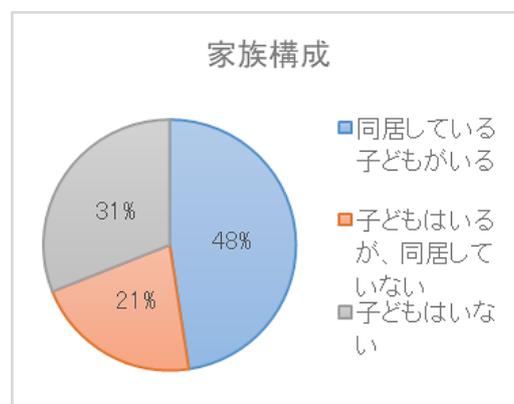
(3) 婚姻有無

	(人)
既婚	109
未婚	36
計	145



(4) 家族構成

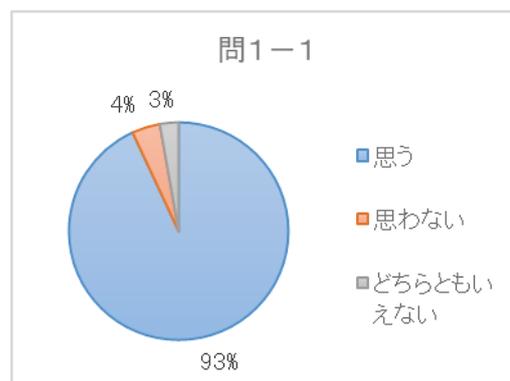
	(人)
同居している子どもがいる	69
子どもはいるが、同居していない	31
子どもはいない	45
計	145



8 調査結果・概要

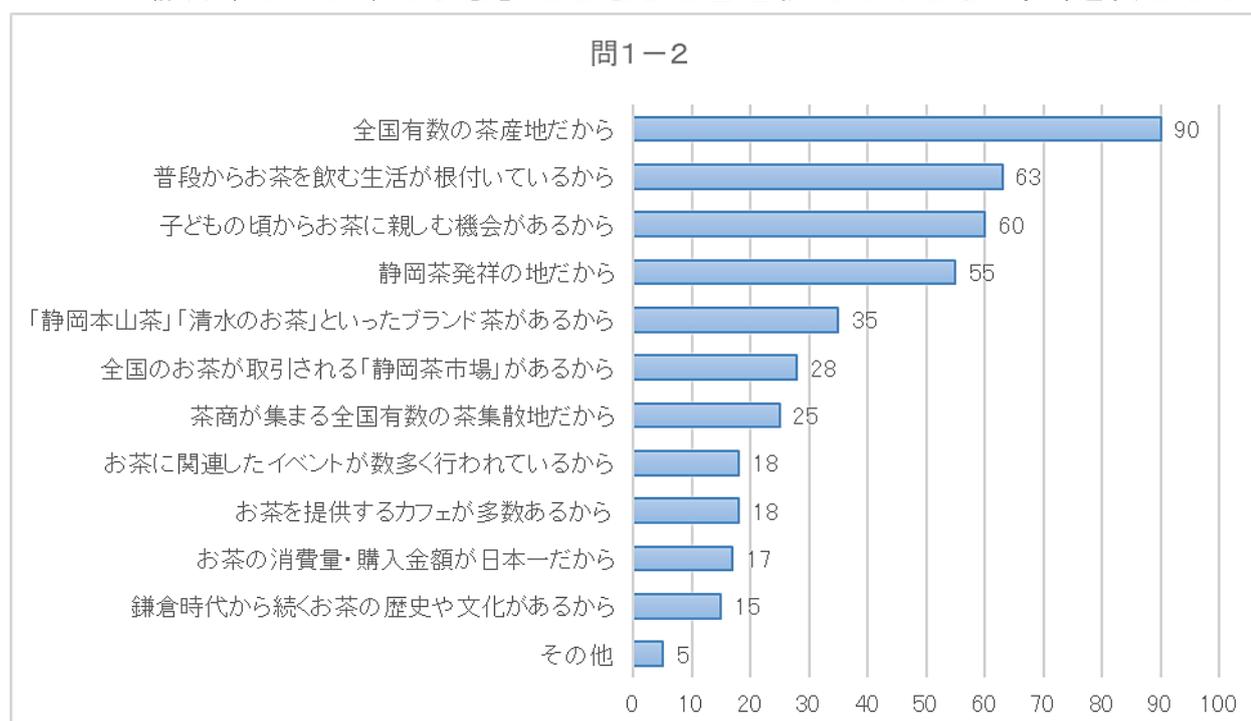
問1-1 あなたは、静岡市が「お茶のまち」だと思いますか。

問1-1	
思う	135人
思わない	6人
どちらともいえない	4人



問1-2 「問1-1」で「思う」と回答した人に伺います。

静岡市が「お茶のまち」だと思う理由を教えてください。（選択は3つまで）



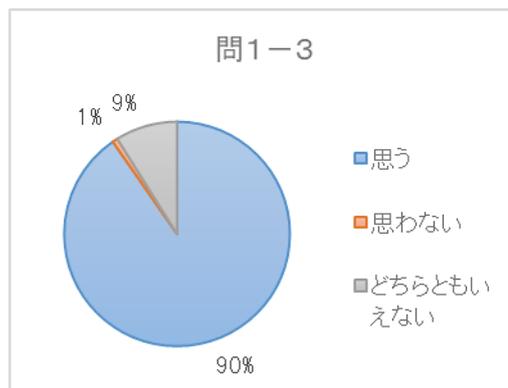
<その他意見>

- ・他県出身なので茶畑を見かけすごく驚いた。静岡は本当にお茶のまちだと思った。（30代女性）
- ・静岡駅地下広場や茶町辺りでお茶の香りがし、まち全体がお茶の香りに包まれているから。（40代男性）
- ・県外に住んでいた時から「お茶は静岡」「静岡ならお茶」という認識はあったが、静岡に来て、お茶の美味しさに感動し、「お茶のまち」を実感した。（70代以上男性）

問1-3 「問1-1」で「思う」と回答した人に伺います。

あなたは、静岡市が「お茶のまち」であることを誇りに思いますか。

問1-3	
思う	122人
思わない	1人
どちらともいえない	12人

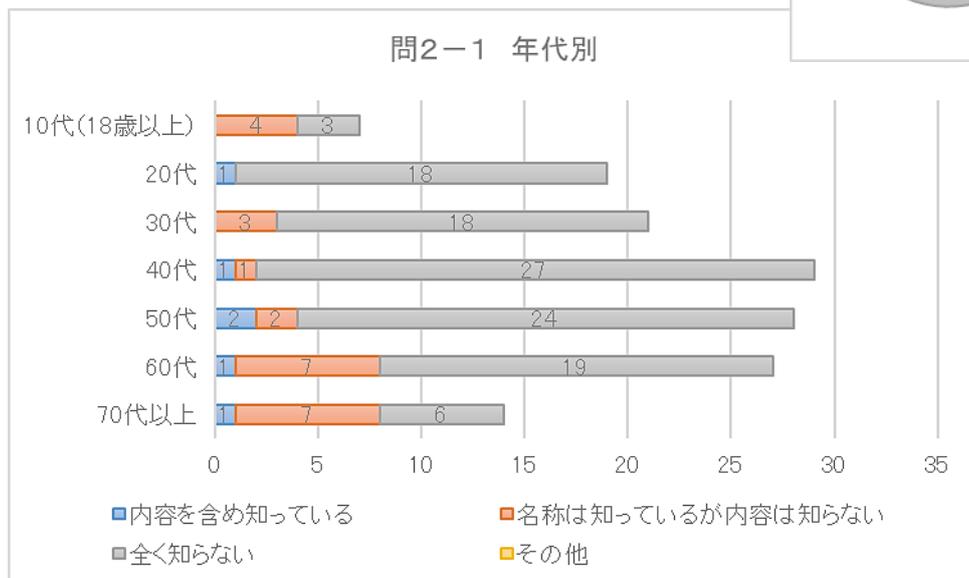
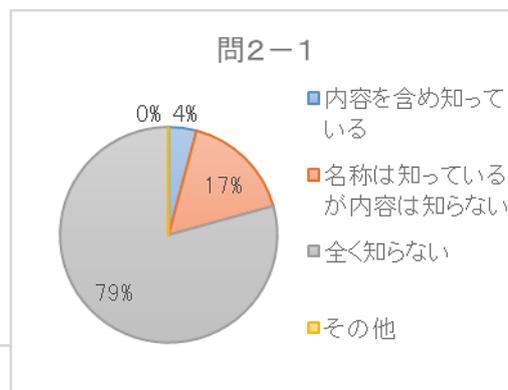


静岡市が「お茶のまち」であることを「誇りに思う」と回答した割合は90%であった。

「お茶のまち」であると思う理由として、「全国有数の茶産地である」が90人と最も多く、次いで、「普段からお茶を飲む生活が根付いている」が63人、「子どもの頃からお茶に親しむ機会がある」が60人となっている。

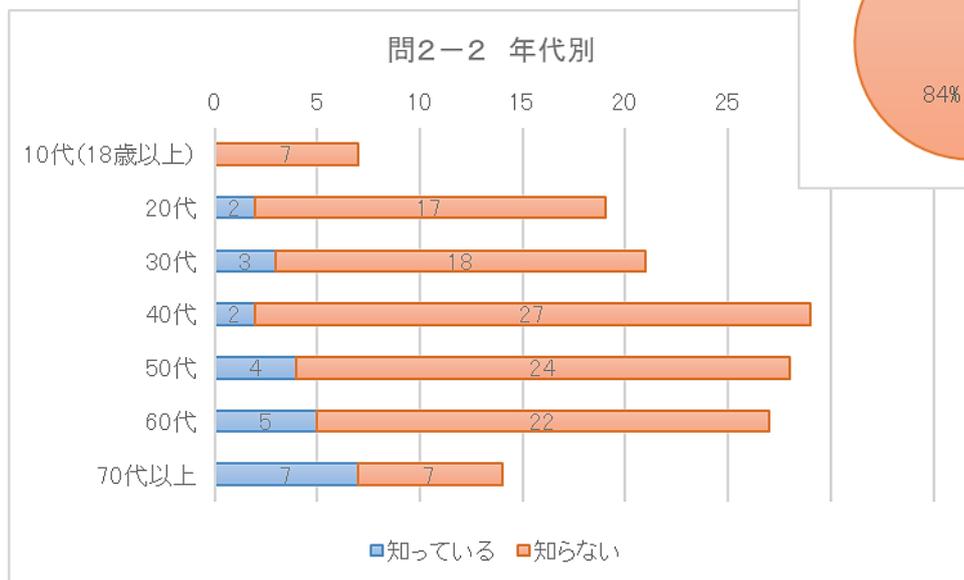
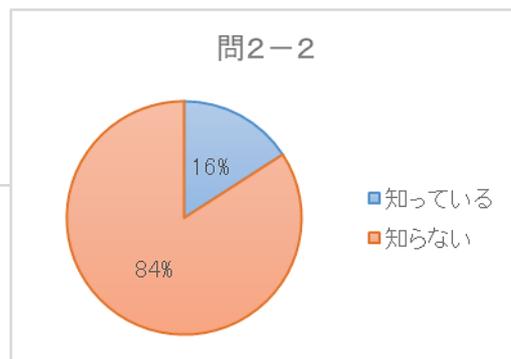
問2-1 あなたは、「静岡市めざせ茶どころ日本一条例」を知っていますか。

問2-1	
内容を含め知っている	6人
名称は知っているが内容は知らない	24人
全く知らない	115人
その他	0人

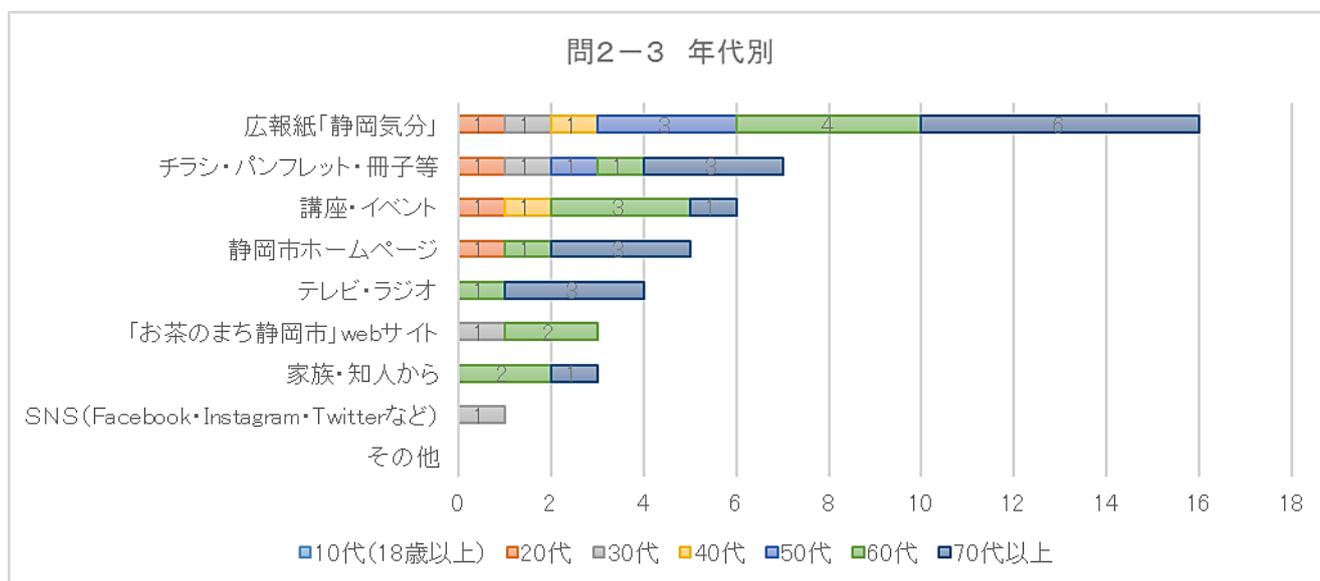


問2-2 あなたは、静岡市では「11月1日」が「お茶の日」だということを知っていますか。

問2-2	
知っている	23人
知らない	122人

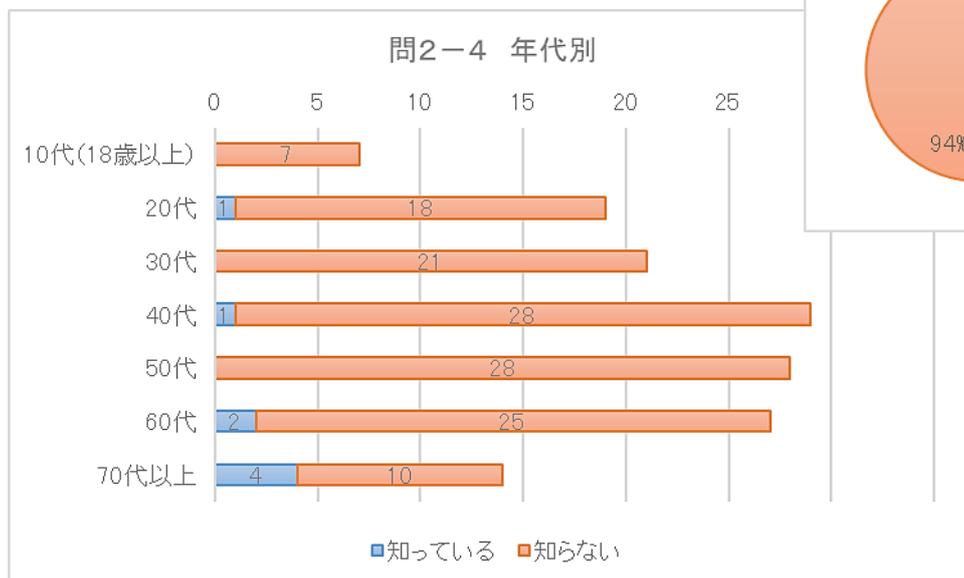
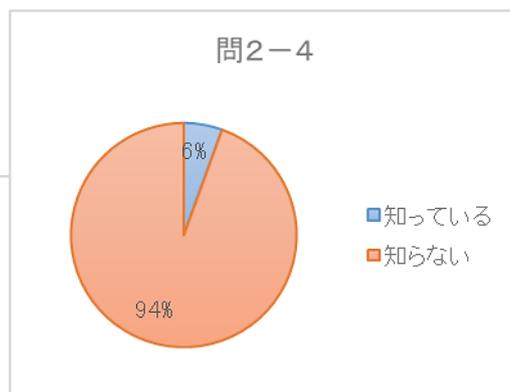


問2-3 「問2-2」で「知っている」と回答した方に伺います。「お茶の日」のことをどこで知りましたか。(複数選択可)

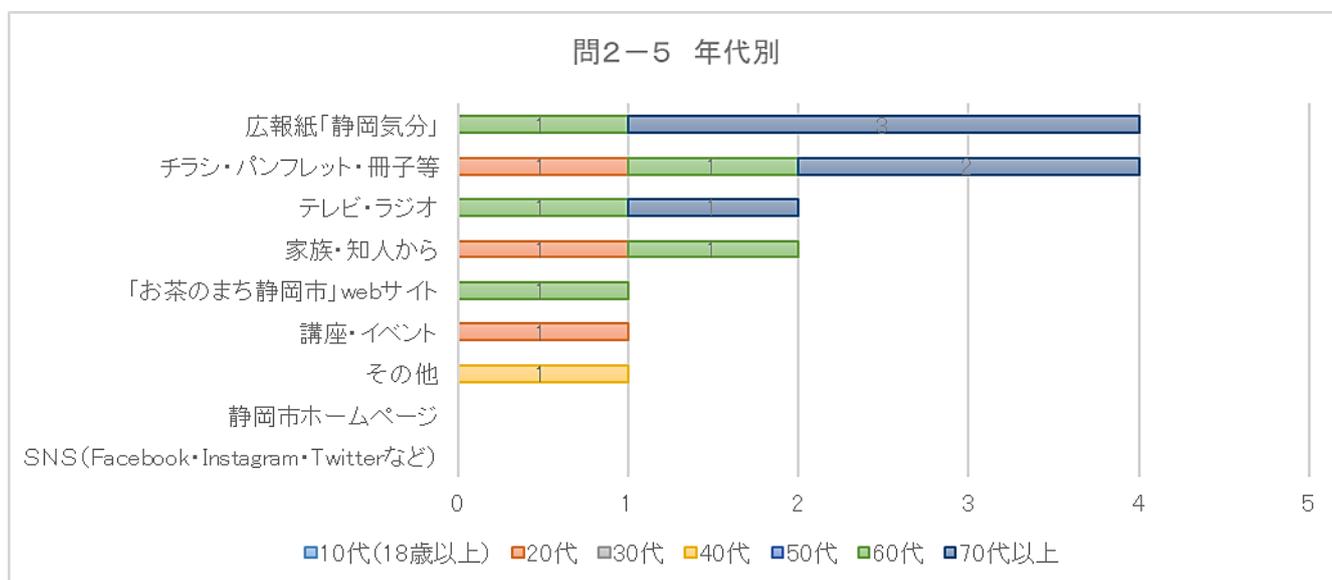


問2-4 あなたは、静岡市では「毎月1日」が「お茶に親しむ日」だということを知っていますか。

問2-4	
知っている	8人
知らない	137人



問2-5 「問2-4」で「知っている」と回答した方に伺います。
「お茶に親しむ日」のことをどこで知りましたか。(複数選択可)



<その他意見>

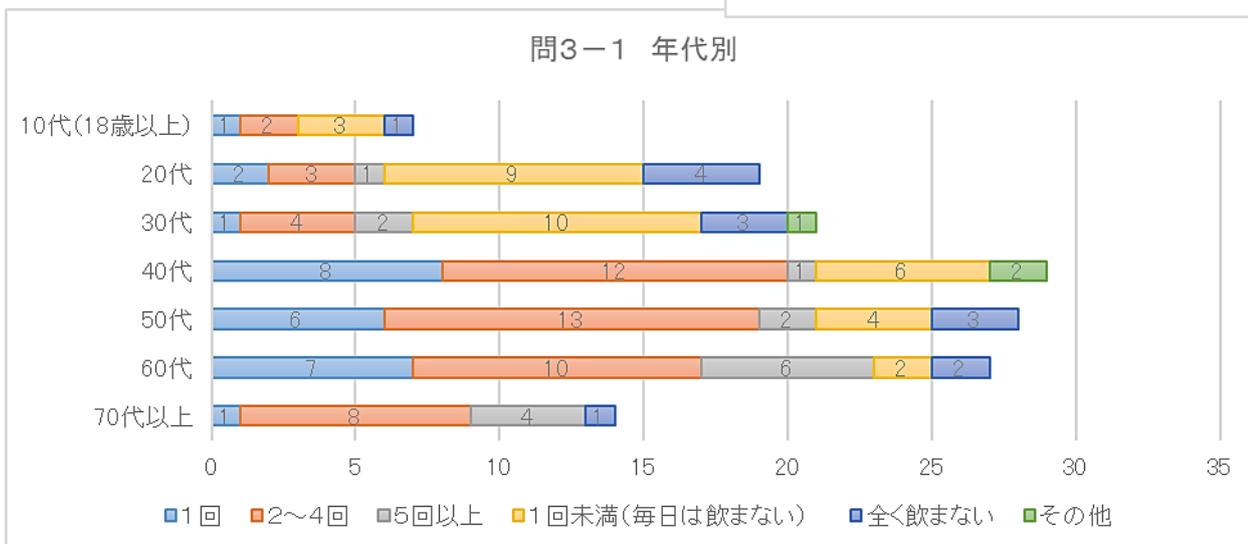
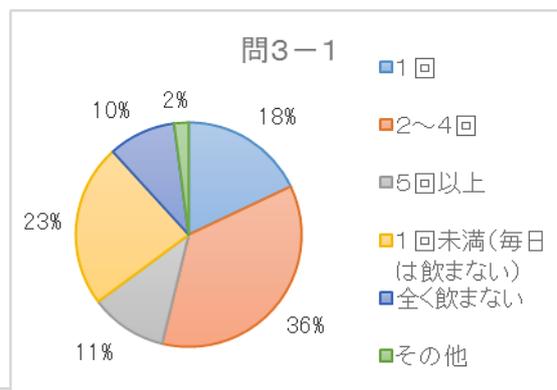
- ・近所のお茶の店にポスターが貼ってあるのを見て。(40代女性)

「静岡市めざせ茶どころ日本一条例」を「全く知らない」と回答した割合は79%、「お茶の日」を「知らない」が84%、「お茶に親しむ日」を「知らない」が94%という結果であった。いずれについても、「知っている」と回答した年代は60代、70代以上が多く、「広報紙」で知ったと回答した割合が多い。

問3-1 緑茶についてお伺いします。

あなたは、茶葉で入れる緑茶（急須・専用ボトル等を使用）を1日に何回飲みますか。（ペットボトルなどのドリンク茶を除く）

問3-1	
1回	26
2~4回	52
5回以上	16
1回未満(毎日は飲まない)	34
全く飲まない	14
その他	3

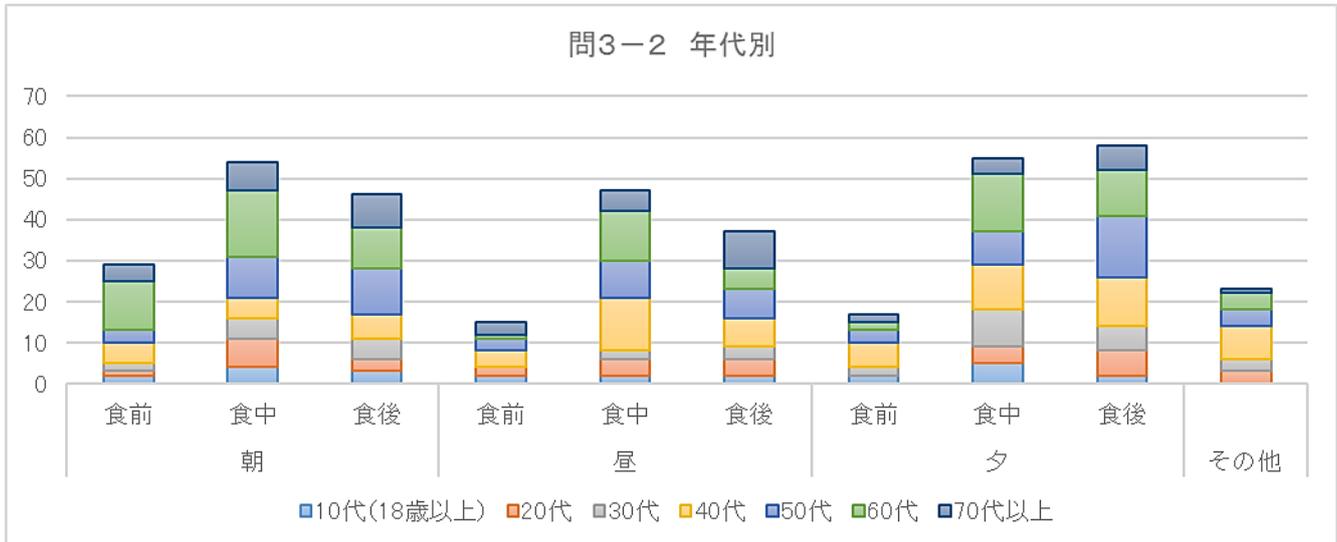


<その他意見>

- 冬は1日2~3回、夏は茶葉ではあまり飲まない。(40代女性)
- 年に数回程度。(40代女性)
- 現在授乳中でカフェインを控えているため飲んでいない。(30代女性)

問3-2 「問3-1」で「1回」、「2~4回」、「5回以上」、「1回未満(毎日は飲まない)」と回答した方に伺います。

あなたは、いつ緑茶を飲みますか。(複数選択可)



＜その他意見＞

- ・おやつ・間食時に。(30代女性)
- ・落ち着きたいとき、ほっと一息つきたいとき。(40代女性)
- ・お風呂上がりに。(40代女性)
- ・のどが渴いたとき(水分補給として)。(50代女性)
- ・テーブルにはいつでも飲めるように準備している。(70代以上男性)
- ・時間に余裕がある時、時間など意識せず飲みたい時に飲む。(20代女性)
- ・夜、寝る前に。(40代女性)

問3-3 「問3-1」で「1回」、「2~4回」、「5回以上」、「1回未満(毎日は飲まない)」と回答した方に伺います。

あなたが緑茶を飲む理由は何ですか。

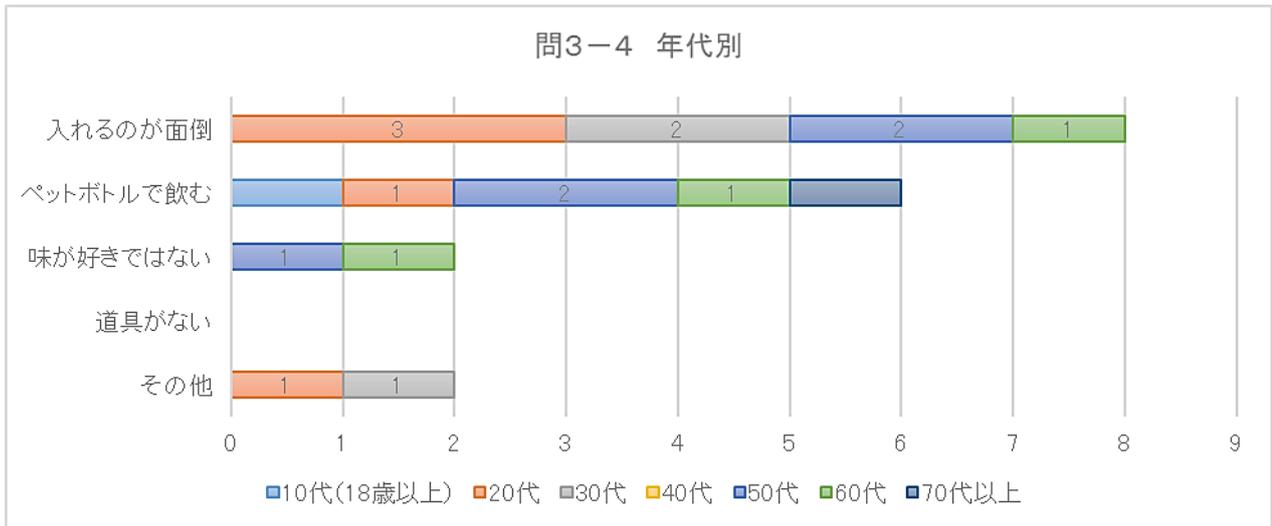
(主な理由)

- ・健康に良いと思うから。(40代男性ほか)
- ・美味しいから。(20代女性ほか)
- ・リラックスできるから。(60代女性ほか)
- ・お茶が大好きだから。(60代女性ほか)
- ・毎日の習慣になっているから。(50代男性ほか)
- ・家に茶葉がたくさんあるから。(30代女性ほか)
- ・食事に合うから。(30代女性ほか)
- ・他の飲料と比べ飲みやすいから。(70代以上男性ほか)

問3-4 「問3-1」で「全く飲まない」と回答した方に伺います。

あなたが緑茶を飲まない理由は何ですか。(複数選択可)

問3-4	
入れるのが面倒	8
ペットボトルで飲む	6
味が好きではない	2
道具がない	0
その他	2



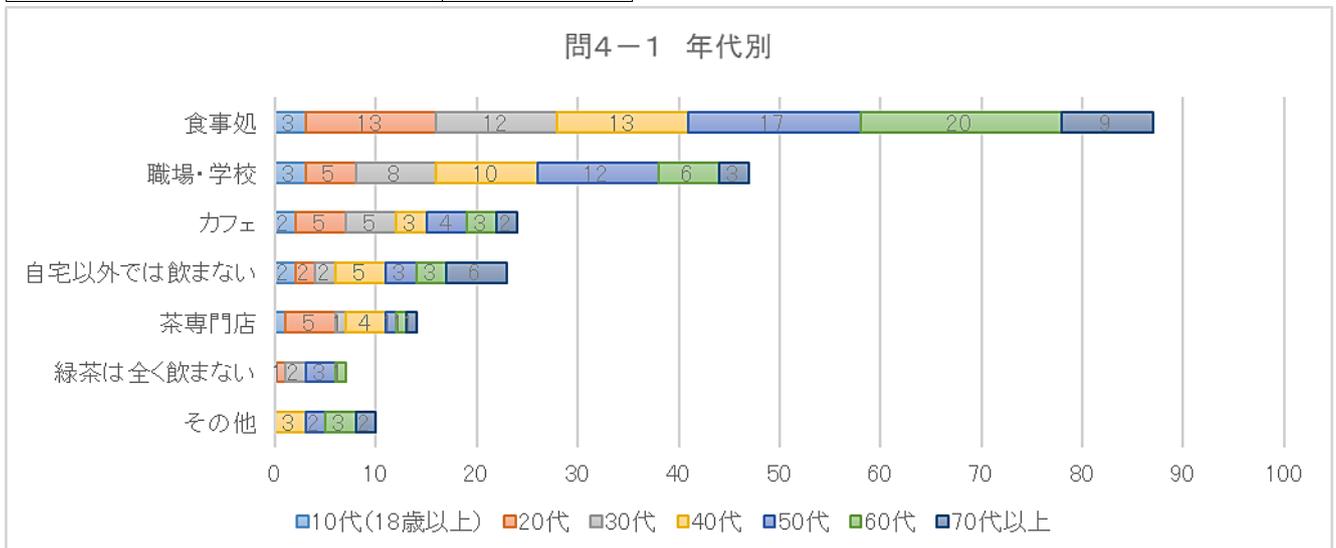
<その他意見>

- ・カフェインが苦手だから。(30代女性)
- ・家では水しか飲まないから。(20代女性)

毎日1回以上「茶葉で入れたお茶を飲んでいる人」と回答した割合は65%で、40代から50代では7割以上、60代から70代以上では8割以上となっている。一方、10代から30代は「毎日飲まない」、「全く飲まない」と回答した割合が6割を超えている。

問4-1 あなたは、自宅以外ではどこで緑茶を飲みますか。(複数選択可)

問4-1	
食事処	87
職場・学校	47
カフェ	24
自宅以外では飲まない	23
茶専門店	14
緑茶は全く飲まない	7
その他	10

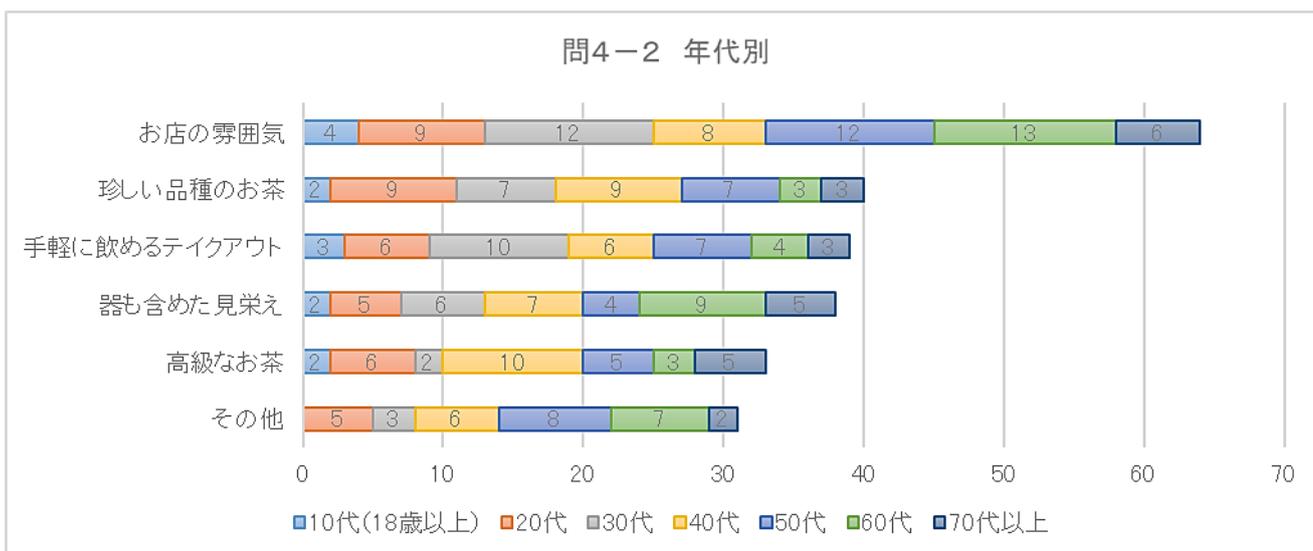


<その他意見>

- ・ドライブ中（50代女性）
- ・実家、知人宅で。（40代女性ほか）
- ・サービスエリアに無料で置いてあると必ず飲む。（40代女性）
- ・外出時はボトルに入れて持ち歩いている。（70代以上男性）
- ・外出時にコンビニや自販機等で購入して飲む。（40代女性）
- ・自宅以外ではわざわざ飲まないが、提供される緑茶は拒まず飲む。（70代以上女性）

問4-2 「問4-1」で「茶専門店」、「カフェ」、「食事処」、「職場・学校」と回答した方に伺います。
自宅以外で緑茶を飲む際に求めるものは何ですか。（複数選択可）

問4-2	
お店の雰囲気	64
珍しい品種のお茶	40
手軽に飲めるテイクアウト	39
器も含めた見栄え	38
高級なお茶	33
その他	31



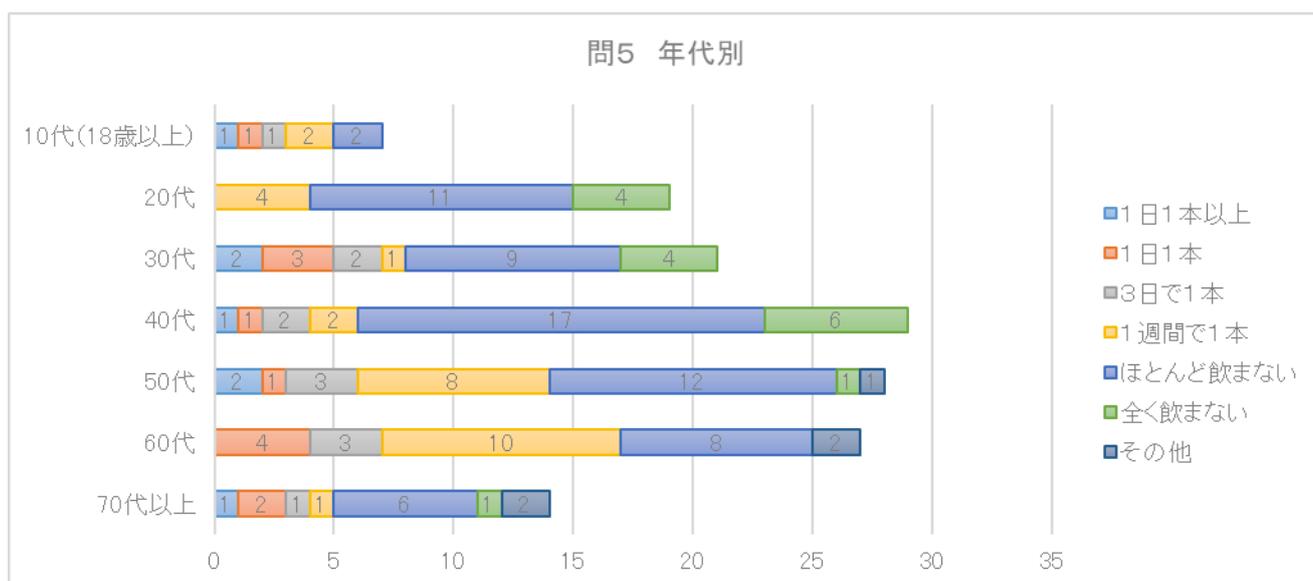
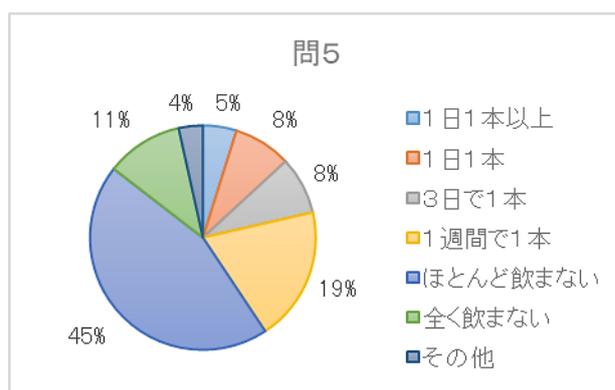
<その他意見>

- ・価格、値段（60代男性ほか）
- ・味・香り（40代女性ほか）
- ・安い茶葉でも丁寧に入れたお茶（50代女性）
- ・食事にあうお茶（40代女性）
- ・その場の雰囲気（30代女性）
- ・農薬、化学肥料が不使用（20代男性）

自宅以外で緑茶を飲む場所として、「食事処」と回答した人が87人と最も多く、次いで、「職場・学校」が47人となった。飲む際に求めるものとしては、「お店の雰囲気」と回答した人が64人と最も多かった。

問5 あなたは、ペットボトルの緑茶をどれくらい飲みますか。(ペットボトル1本：500ml程度)

問5	
1日1本以上	7
1日1本	12
3日で1本	12
1週間で1本	28
ほとんど飲まない	65
全く飲まない	16
その他	5



<その他意見>

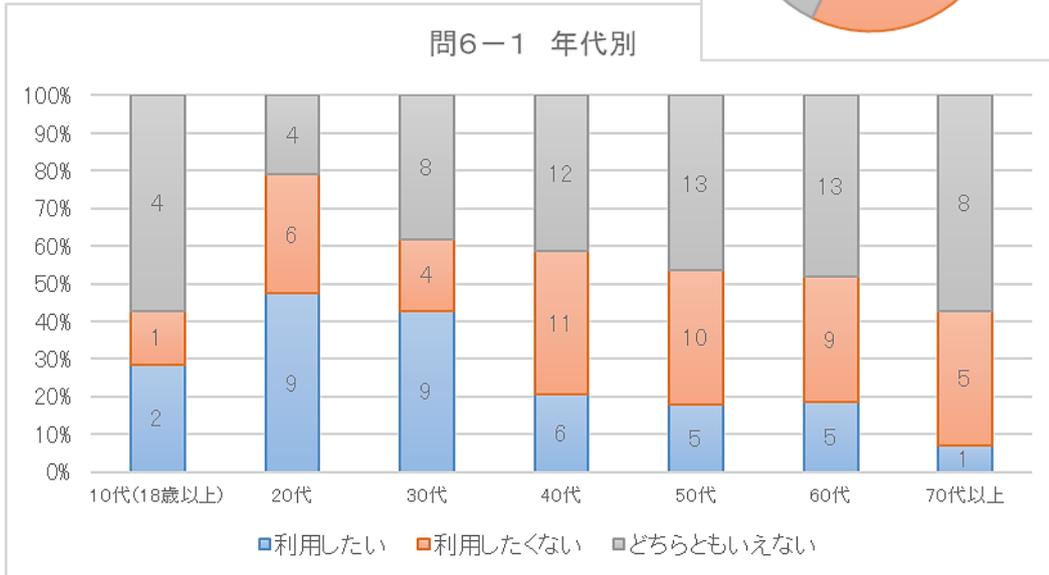
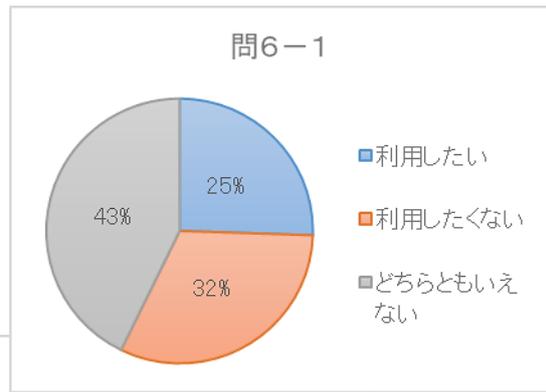
- ・お茶パックを購入して、水筒で飲んでいる。(50代男性)
- ・コマーシャルで新製品が出た時。(70代以上男性)
- ・夏は家で緑茶の水出しを作るが、それを作らなかったときはペットボトルのお茶を飲むこともある。(60代女性)
- ・SDGSを考え、なるべくペットボトルは利用しないようにしている。(60代男性)
- ・飲み物が手元になく、水分を欲している時は自販機で購入して飲む。(70代以上女性)

ペットボトルの緑茶を毎日飲む(「1日1本」、「1日1本以上」と回答した割合が13%であることに対し、「ほとんど飲まない」が45%、「全く飲まない」が11%となった。

問6-1 あなたは、緑茶のサブスクリプション^(※)が静岡市で実施された場合、利用したいと思いますか。

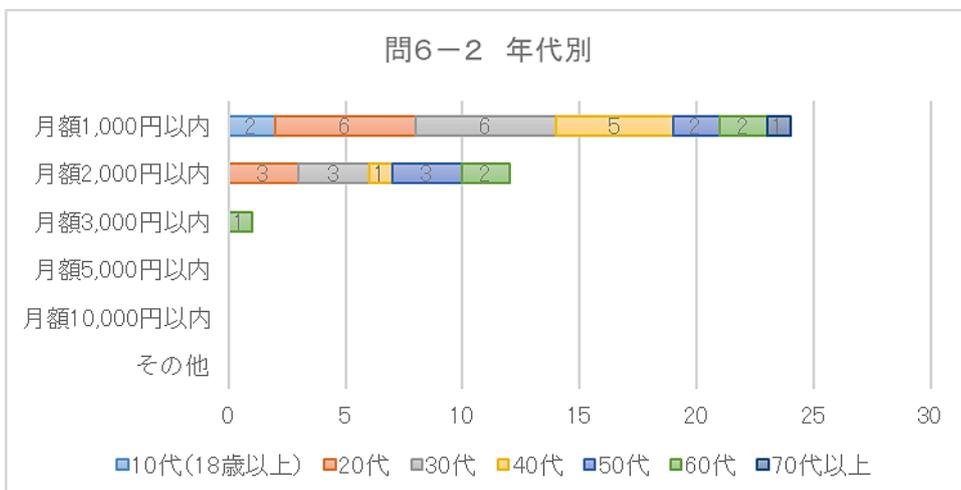
(※) サブスクリプションとは、毎月定額料金を支払うことにより、特定のお店で飲み放題、又は限量以内で自由に飲むことができるサービスのこと。既に東京などで実施されている。

問6-1	
利用したい	37人
利用したくない	46人
どちらともいえない	62人



問6-2 「問6-1」で「利用したい」と回答した方に伺います。
料金がいくらまでなら利用したいと思いますか。

問6-2	
月額 1,000 円以内	24
月額 2,000 円以内	12
月額 3,000 円以内	1
月額 5,000 円以内	0
月額 10,000 円以内	0
その他	0



問6-3 「問6-1」で「利用したくない」と回答した方に伺います。

利用したくないと思う理由を教えてください。

- ・家で好きなお茶を飲めるから必要ない。(50代女性ほか)
- ・月額料金分ほどお茶を飲みそうもないから。(20代女性ほか)
- ・コーヒーに比べ緑茶を楽しむ機会が少ないため。(60代男性)
- ・飲んだ分だけ支払うことで十分足りるから。(40代女性ほか)
- ・自分で好きなものを買いたいから。(30代女性ほか)
- ・利用したことはあったがまた飲みたいと感じなかった。(70代以上男性)
- ・自分で好きなお茶を入れた方が早いから。(60代男性ほか)
- ・お茶が身近すぎて、そこまでして飲みたい。(40代女性)
- ・家で入れて水筒を持ち歩いているから外で買う必要がない。(40代女性)
- ・そのお店に何度も行くかどうかわからないので。(60代女性)
- ・お茶は飲まないから。(60代男性ほか)
- ・地元だと買うまでもなく手に入る。(30代男性)
- ・他県の人に向けてのサブスクならよいと思う。(40代女性)
- ・緑茶を飲むとしたら自宅でゆっくり飲みたいため。(30代男性)
- ・茶農家さんとの縁を保持したいから。(70代以上女性)

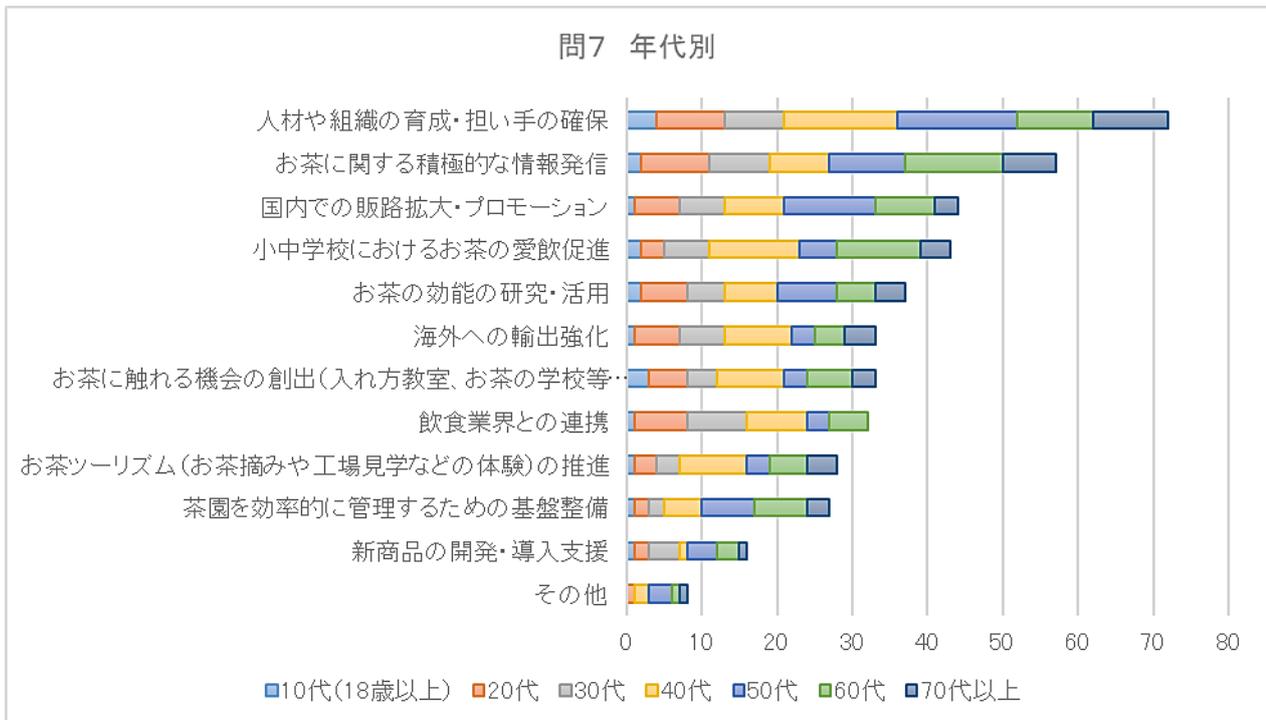
サブスクリプションを「利用したい」と回答した年代は10代から30代に多く、40代以上では「利用したくない」という回答が多い結果となった。

料金については、「月額1,000円以内」、「月額2,000円以内」が全体の9割以上となった。

問7 静岡市では、「静岡市目指せ茶どころ日本一条例」に基づき、令和2年3月に策定した「第2次静岡市茶どころ日本一計画」では、「静岡市のお茶」の振興のため次に掲げる取組みを推進しています。

この中で、特に重要と考えられる取組みはなんですか。(複数選択可)

問7	
人材や組織の育成・担い手の確保	72
お茶に関する積極的な情報発信	57
国内での販路拡大・プロモーション	44
小中学校におけるお茶の愛飲促進	43
お茶の効能の研究・活用	37
海外への輸出強化	33
お茶に触れる機会の創出 (入れ方教室、お茶の学校等講座の実施)	33
飲食業界との連携	32
お茶ツーリズム(お茶摘みや工場見学などの体験)の推進	28
茶園を効率的に管理するための基盤整備	27
新商品の開発・導入支援	16
その他	8



<その他意見>

- ・自治会・町内会の会合でのお茶の提供（60代女性）
- ・静岡茶の特徴を持った自園自製茶に重点を置いた取り組みをする。（70代以上男性）
- ・煎茶道の普及（20代男性ほか）
- ・手軽に飲める粉末茶やティーバッグのお茶を増やす。（50代女性）
- ・安く手軽にお茶を飲める店舗を増やす。（40代男性）
- ・飲食店でお水の代わりにお茶を出す事を推奨する。（50代女性）
- ・緑茶を日常生活に取り入れる方法、プロモーション、戦略を考える。（お茶好きの著名人によるPRなど）（40代男性）

重要と考えられる取り組みとして、「人材や組織の育成・担い手の確保」と回答した人が72人と最も多く、次いで、「お茶に関する積極的な情報発信」が57人、「国内での販路拡大・プロモーション」が44人、「小中学校におけるお茶の愛飲促進」が43人となっている。

問8 「静岡市のお茶」、「お茶のまち静岡市」について、ご意見等があれば、ご自由にお書きください。

【情報発信・プロモーション】

- ・静岡のお茶に親しみ、飲み慣れているので一番美味しいと思う。美味しいお茶の魅力を他県の人にも知ってほしい。（60代女性）
- ・静岡市に住んでいるが、日々の生活の中でそれほど「お茶のまち静岡市」を認識する機会がない。観光客向けというよりも、まずは地元の人たちにあらためてお茶の魅力をアピールし、日々の生活に自然に取り入れるような働きかけをしてほしい。（40代男性）
- ・首都圏でも「お茶といえば静岡」と浸透している。しかし、飲み物も多様となり若者のお茶離れも感じている。もっと生活に根差したお茶そのものの効用をアピールする必要がある。（60代男性）
- ・静岡のお茶は美味しいが、積極的なプロモーションはまだまだのように感じる。（60代女性）
- ・市内の飲食店やカフェと連携し、静岡各所で美味しい静岡茶が、手軽にリーズナブルに飲める機会を増やしてほしい。（40代男性）
- ・健康志向の高まりから、お茶の効用をアピールしていくとよい。（60代女性）

- ・ペットボトルでお茶は普及したが、急須で飲む文化伝統は薄れていると思う。若い人に急須で飲むお茶の美味しさを伝えていくべきで、お茶の入れ方やおいしい飲み方を発信してほしい。(60代男性)
- ・学校の蛇口からお茶が出るとニュースで見たことがある。静岡市もそうしてはどうか。学校で蛇口をひねればお茶が出ると嬉しいと思う。(50代女性)
- ・お茶を使った菓子、手軽に手に入れられる本格緑茶のペットボトル商品の開発など、お茶に関する知識や興味が薄くお茶を飲む習慣があまりない若い人達へのアピールも必要だと思う。(40代女性)
- ・歴史博物館でもお茶の販売ショップを設けることを検討してはどうか。(70代以上男性)
- ・学校の授業やイベントでお茶に関する体験の場を作ることが、お茶に興味を持ってもらえるきっかけに繋がると思う。(20代女性)
- ・他県から来た単身赴任の方や、学生、外国の方にお茶のティーパックを配布して静岡のお茶を知ってもらおう。(60代女性)
- ・静岡茶は、味が良い等の高級志向で勝負したらどうか。(60代女性)
- ・静岡お茶検定とか、親しみやすいイベントがあるとよい。(40代男性)
- ・静岡といえばお茶というのは認識されているので、全国各地のイベントへの参加や、オリンピック等を利用して世界にもっとアピールして欲しい。(30代男性)
- ・緑茶スイーツなど、お茶と緑茶商品（食物だけでなく雑貨や衣料や緑茶の効能を利用した物）とイベントを結びつけて、魅力発信と集客につなげていければよい。(60代女性)
- ・安価で気軽に利用できるカフェなどが図書館や公園などにあれば、たくさん利用すると思う。公共施設の近くであれば、マイカップを持ってサブスクなど利用するかもしれない。(40代女性)
- ・静岡市のみではなく、島田市や掛川市などと協力してほしい。他県からみたとき、「お茶といえば静岡」という認識が高まればよい。(50代女性)
- ・他市出身だが、静岡市がお茶の産地という印象はあまりない。消費量が日本一も知らなかった。「お茶のまち静岡市」も何をもってお茶のまちなのかわかりにくく、発信も不足していると思うので、もっと具体的にどうしたいかを明確にして発信したら良いと思う。(30代男性)
- ・茶畑へ行き、茶摘みやお茶工場の見学など体験（「お茶ツーリズム」）することで、お茶の全体像がよくわかると思う。全体を知ればお茶を好きになるきっかけになると思う。(70代以上男性)
- ・「お茶の日」、「毎月1日はお茶に親しむ日」など記念日を制定するだけでは意味がない。静岡駅に緑茶が出てくる蛇口をつくるとか、他市のプロモーションをまねてもっと思い切ったプロモーションをすべきである。(40代男性)
- ・学校給食で毎日やかんのお茶が出ていたことが非常に印象深く、記憶に残っている。子どもの頃からお茶に親しむ点でも大変良い取り組みであると思うので今後とも続けて欲しいと思う。(20代女性)
- ・静岡に住んでいても、まだまだ知らない産地や銘柄があるので、その産地ならではのお茶のストーリーがあればもっとおいしく感じると思う。(30代女性)
- ・静岡には、お茶を使ったジェラート屋さんやカフェなどもたくさんあるので、静岡以外の人たちや、若年層の方たちにも効果的にアピールできる機会が増えると良い。(40代女性)

【生産・担い手】

- ・「お茶のまち静岡市」をPRしている割には、一般消費者へのプロモーションや生産者への指導・支援が少ないと感じる。中山間地域は高齢化が進み、茶生産農家の減少が進んでいる。持続可能な「お茶のまち」として発展していくためにも、後継者の育成・支援は重要な課題だと考える。(30代男性)
- ・お茶の推進をするなら、担い手の確保、収入の向上につながる取り組みがあるとよい。(20代女性)
- ・生産量1位では無くなったのは残念だが、まずは地元（お茶のまち静岡市）から盛り上げて、お茶の良さを見直して、おいしい緑茶を広めてほしい。(50代男性)
- ・お茶の価格が高すぎる。そのわりには生産者が恵まれていない。(70代以上男性)
- ・茶産業の衰退は何としても食い止めたい。行政のバックアップによる担い手の確保、育成が必要である。(70代以上男性)

- ・高齢化で農家も存続が難しい。担い手の確保と共に、天候の変化も考えて育て易い品種に改良も必要かと思う。(50代女性)
- ・労力に見合った収入が得られないといった理由で、近所に放棄された茶畑を多く見かける。まずはここを解決しなければ、静岡市のお茶生産の減少は抑えることができない。効率の良い生産で後継者を育てる必要があると思う。(50代女性)
- ・「お茶のまち静岡市」と言うのであれば、カフェやマルシェなど別のかたちでお茶に携わる若い人たちも支援してあげるのもよい。(50代女性)
- ・消費者を増やすよりも、携わる人を増やしていけば自然と活性化していくと思う。(40代男性)

【ブランディング】

- ・お茶どころ静岡なのだから、飲食店でも美味しいお茶を出してほしい。(70代以上女性)
- ・静岡＝お茶という印象はあるが、具体的なイメージがない。あっても中高年層向けの印象なので、もっと若者もターゲットに入れてほしい。(20代女性)
- ・最近鹿児島に抜かれるなどお茶のイメージはどんどん弱くなっているように思う。静岡茶の生産量は多いがブランディングできてない。(30代男性)
- ・静岡のお茶の美味しさは格別だと思う。静岡茶のブランドの育成・強化を期待したい。(60代男性)
- ・静岡駅の地下や新幹線ホームから漂うお茶の香りにほっとする。もっとお茶の香りが漂うまちになって、飲む以外の楽しみ方もあればいいと思う。(30代女性)
- ・「お茶のまち静岡市」は市民の誇りである。後世へ繋がるよう、子どもたちに伝え、習慣として人から人へと伝わる教育が大切だと思う。(40代女性)
- ・KADODE OOIGAWA や佐藤園のお茶カフェ等、魅力的なお茶を提供する場所がある。三保地区や久能地区にお茶の駅を設けて美味しいお茶を提供してほしい。(60代男性)
- ・静岡駅やその周辺の町並みをお茶の町である雰囲気のある景観にする。(70代以上男性)
- ・静岡市は「日本一のお茶」を目指しているのであれば、SHIZUOKA のブランドを作り、市民や県外の人にたくさん宣伝するのも大事だと思う。(30代男性)
- ・子どもたちにお茶に触れる機会を増やし、習慣にしてあげることが大事だと思う。小さい頃の楽しかった、美味しかった経験は後々まで残るし、お茶に良いイメージが持ってもらえると思う。幼稚園や小学校で色々なお茶の飲み比べなど出来るとよい。(20代女性)
- ・お茶は静岡の農業の大きい部分を占めているのも関わらず、お茶農家の地位も高いとは言えず、お茶の魅力もお茶畑の景観の魅力も十分に内外に発信できていないとは思えない。静岡茶を使用したかき氷の取り組みは、お茶に触れる良いきっかけになるとともに、なにより楽しいと思える。(30代女性)
- ・子どもたちからお茶に親しんでいないと、いくらお茶の産地だからと言われてもピンとこない。子どもたちからお茶を飲む習慣がないため、「お茶の産地は静岡」ということは理解していても、それと生活は全く結びついてこないと感じる。(40代女性)

◇所感◇

静岡市を「お茶のまち」だと考え、そのことを誇りに思う市民の割合が高く、お茶が本市にとって重要な産業であるとともに、市民にとって誇るべきものであります。お茶を1日に1回以上飲んでいる人が多い一方、若年層ではお茶を飲む機会が減ってきており、お茶を使ったスイーツ、お茶カフェやサブスクリプションなど、若年層をターゲットにお茶に触れる機会を増やしていく必要があります。また、「静岡市茶どころ日本一条例」や「お茶の日」「お茶に親しむ日」が十分に認知されていないことから、積極的に情報発信を行っていくとともに、静岡市のお茶のブランディングにより、全国有数の茶産地であり、日本一の消費地である「お茶のまち静岡市」をPRしていきます。

今回の市政アンケートモニター調査の結果を参考に、関連事業をより一層推進していきます。